

# 実践のまとめ（第6学年 外国語科）

五泉市立村松小学校 教諭 飯岡 真里

## 1 研究テーマ

**コミュニケーションを図ることの楽しさを感じ、主体的に表現しようとする児童の育成 ～ICTの活用を通して～**

## 2 研究テーマについて

### (1) 研究テーマ設定の意図

中央教育審議会では、令和3年1月に「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して～全ての子どもたちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～（答申）」～を取りまとめた。（以下「答申」とする。）答申では、今後実現すべき教育の姿として「個別最適な学び」と「協働的な学び」を掲げ、それらを実現するための「教職員の姿」が示された。そこには、「子供一人一人の学びを最大限に引き出し、主体的な学びを支援する伴走者としての役割を果たす」と示されている。しかし、これまでの授業後のアンケートで多くの児童が「外国語が楽しい」と答えているが、授業中では児童が主体的に学ぶ姿が見られない。つまり、授業の様子から、よりよい伴走者としての教師の役割を果たせているとは言えない状況にある。その原因は、児童の「もっと英語を話せるようになりたい」「ALTと話したい」というコミュニケーションを図りたいという気持ちを尊重するための場の設定ができていないからだと考えた。

そこで、児童1人1人の意欲を伸ばし、言語活動で主体的に学ぶ姿を実現するためには、ICTの活用が有効であると考え、本研究テーマを設定した。ICTの活用により、児童のコミュニケーションを図る場を工夫し、英語で「コミュニケーションを図ることの楽しさを感じ、主体的に表現しようとする児童」の姿を目指す。

### (2) 研究テーマに迫るために

#### ① チャレンジタイムとALT発音動画の活用

単元毎に「できるようになってほしい」英語表現を10個程度一覧に提示したものを作成、配布し、個々のペースで英語表現の習得を目指すチャレンジタイムを毎時間設定する。一覧表の表現が言えるようになったら、教師やALTからチェックを受け、合格なら一覧の合格した表現の項目にご褒美シールを貼っていく。児童は全ての項目にシールが貼られると、ミニ先生の称号を与えられ、赤白帽子を被って友達の練習相手を務めることができる。不合格なら項目のところに日付を書き、合格できるまで何度でもチャレンジできるようにする。この練習の場面で発音の仕方や表現方法が分からない児童のために、一覧表の表現を自分のペースで練習できるように、チャレンジタイムの表現を「ALTの発音動画」にして配付する。この動画の配付は、短時間に集中して取り組んだり、自宅でも練習したりすることができることもねらいとした。

#### ② ブラッシュアップタイムとビデオ動画機能等の活用

言語活動をする際に児童は、自分では、相手を見て話しているつもりでも、視線は天井を見ていたり、声の大きさが十分でなかったりする時がある。そこで、ブラッシュアップタイムでビデオ動画機能を活用する。ブラッシュアップタイムとは、教師やALTに発表等を聞いてもらった後、表現を工夫・修正し、さらに友達同士で聞き合っ互いにアドバイスをし合う活動である。この時、互いの発表の様子を録画し合い、客観的に自分の発表

の様子を確認できるようにする。自分の発表をよりよく友達に伝えるためにできることは何かを、自分の録画を通して考えさせ、よりよい表現を目指すきっかけとしたい。このブラッシュアップタイムを通して、自分の表現の仕方に自信をもたせ、主体的に表現しようとする児童の育成を目指す。

**(3) 研究テーマにかかわる評価**

- ① 単元前後のチャレンジタイムやブラッシュアップタイムのアンケートや振り返り記述からコミュニケーションを図ることの楽しさを感じる児童について分析する。
- ② 単元前後に質問紙調査を行い、「自ら進んで英語を話したいか」という項目から主体的に表現しようとする児童について分析する。

**3 単元と指導計画**

**(1) 単元名**

Unit 4 Summer Vacations in the world

(NEW HORIZON ELEMENTARY English Course6 東京書籍)

**(2) 単元の目標**

自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、世界と日本の夏休みの過ごし方の違いを知る。自分たちの思い出を紹介したりする時に、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。外国語の背景にある文化に対する理解を深める。例文を参考に文を読んだり、書いたりすることができる。

(※本単元における「書くこと」「読むこと」については、目標に向けて指導は行うが、記録に残す評価は行わない。)

**(3) 単元の評価規準**

	知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ I went to～.I enjoyed～.I ate～.It was ～. およびその関連語句などについて理解している。</li> <li>・ 世界と日本の夏休みの過ごし方などについて、聞き取る技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「相手のことをよく知るために」世界と日本の夏休みの過ごし方などについて、短い話の概要を捉えている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「相手のことをよく知るために」世界と日本の夏休みの過ごし方などについて、短い話の概要を捉えようとしている。</li> <li>・ 外国語の背景にある文化に対する理解を深めるために、海外の国について、短い話の概要を捉えようとしている。</li> </ul>
話すこと(発表)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 【同上】について、理解している。</li> <li>・ 【同上】を用いて、お互いの考えや気持ちなどを話す技能を身に付けている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちのことを伝え、自分たちの夏休みの思い出を紹介することなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて互いの考えや気持ちなどを伝え合っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分たちのことを伝え、自分たちの夏休みの思い出を紹介することなどについて、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを話そうとしている。</li> <li>・ 日本の夏について、簡単な語句や基本的な表現を用いて、お互いの考えや気持ちなどを伝え合おうとしている。</li> </ul>

**(4) 単元と児童**

本単元では、児童が夏休みの思い出を題材とし、「夏休みの思い出を、ALTや友達に写真で紹介しよう」という最終ゴールを設定する。児童が主体的に学習に取り組めるように、新出の言語材料を使うような言語活動を設定する。そして、音声や文字、表現などについて

十分慣れ親しんだうえで、ブラッシュアップタイムを通して、主体的に言語活動に取り組めるよう段階を踏んで提示していきたい。過去形の導入場面では、「過去形チャートシート」（一覧表）とALT発音動画を配付し、過去形の音声と文字を十分に親しませていく。

本学級は男子9人女子16人、計25人が在籍している。昨年度は、「書くこと」に力を入れて学習してきた。今年度の前期は「話すこと」に焦点を絞り、児童同士で話す活動を多く取り入れてきた。しかし、仲の良い友人同士や話しやすいクラスメートと活動しがちであることが気になっていた。そこで、クラスの誰とでも楽しく英語を話してほしいという願いから「チャレンジコミュニケーション」と題して友達と英語でコミュニケーションをとる毎に相手の出席番号に丸を付けていくというチャレンジを行う。この単元が終わるまでにSmall Talk時やブラッシュアップタイムなどで、たくさんの英語を大勢の人に聞いてもらい、英語を話す自信につなげたい。その結果、英語で「コミュニケーションの楽しさ」や「自ら進んで話したくなる児童」を目指していく。

#### (5) 単元の指導計画と評価計画（全8時間、本時6／8時間）

	次 (時数)	学習内容	学習活動	主な評価規準と方法
(2)	1次 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>教師やALTの夏休みの思い出について映像を見ながら話を聞く。</li> <li>夏休みに行った場所・食べた物・楽しんだことをペアで伝え合う。</li> <li>単元の終末の活動を知る。</li> </ul>	<b>Small Talk</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>教師やALTの夏休みの出来事を見たり聞いたりしよう。</li> <li>◎英語で「～した」（過去形）の言い方はどう言うのかな。</li> <li>夏休みの思い出についての発表活動を確認しよう。</li> </ul>	※本次では、記録に残す評価は行わないが、目標に向けて指導を行う。
	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末の出来事について「何をしたか」や「楽しかったか」などを伝え合う。</li> <li>感想の表現の仕方が分かる。</li> <li>単語並べゲームをする。</li> </ul>	<b>Small Talk</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>週末の出来事について話したり聞いたりしよう。</li> <li>◎日本語と英語の語順を比べよう。</li> </ul>	
(3)	2次 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨夜の食べた物について「食べた物」をペアで伝え合う。</li> <li>夏休みの思い出について、行った場所や食べた物、したことなどワークシートに書き写す。</li> </ul>	<b>Small Talk</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>昨夜の出来事について話したり聞いたりしよう。</li> <li>◎語順を意識しながら、夏休みの思い出について文を書いてみよう。（Part 1）</li> </ul>	<u>知・技</u> 夏休みの思い出について書かれた英文を読んで内容を理解している。 <u>思・判・表</u> 簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えようとしている。 <b>【行動観察・ワークシート・振り返り】</b>
	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>週末の出来事についてペアで伝え合う。</li> <li>夏休みの思い出について、行った場所や食べた物、したことなどワークシートに書き写す。</li> </ul>	<b>Small Talk</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>週末の出来事について話したり聞いたりしよう。</li> <li>◎語順を意識しながら夏休みの思い出について文を書いてみよう。（Part 2）</li> </ul>	

	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表に必要な絵や写真、イラストを描く。</li> <li>友達を意識して発表原稿を作成する。</li> <li>・チャレンジタイム</li> </ul>	◎友達が理解しやすくするためにどのようなことに気を付けて作成したらよieldろうか。	
3次  (3)	6 本時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブラッシュアップタイム～リハーサル～</li> <li>・チャレンジタイム</li> </ul>	◎自分はどのように発表しているのだろうか。	<b>思・判・表/主体的</b> 簡単な語句や表現を用いて、自分の考えや気持ちを伝えようとしている。 【行動観察・ワークシート・振り返り】
	7 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>発表会で発表する。</li> <li>友達の発表内容を名簿ワークシートにメモする。</li> <li>・チャレンジタイム</li> <li>・まとめをする。</li> </ul>	◎夏休みの思い出をALTや友達に伝えたり、聞いたりしよう。 ・単元を振り返ろう。	<b>知・技 / 思・判・表 / 主体的</b> 他者に配慮しながら、夏休みの思い出について発表している 【行動観察・ワークシート・振り返り・単元テスト】

#### 4 本時の展開

##### (1) ねらい

動画で自分の姿を確認したり、友達同士で良い点等を伝え合ったりする活動を通して、自分の夏休みの思い出や感想を友人に分かりやすく伝えることができる。

##### (2) 展開の構想

ねらいを達成させるための工夫として、以下の働きかけを行う。

###### ① かかわり合う場の設定の工夫

夏休みの出来事と感想を尋ねたり答えたりする表現を身に付けるための練習をチャレンジタイムで行う。また、児童が相手意識をもち、分かりやすく伝えるための工夫を考えさせるブラッシュアップタイムを行う。「発表」への抵抗感を減らすため、チャレンジコミュニケーションやブラッシュアップタイムを通して学び合いの場を設定する。特に、相手に伝えたいと思う「良かったところ」や「アドバイス」をワークシートに書き、ペアに渡すことによって、自信をもたせ、コミュニケーションの楽しさにつなげたい。

###### ② ICT活用の工夫

「伝わりやすい発表」にするために、どのような点に注意したり、工夫したりすればいいのか、動画による振り返りを通して個々の課題の解決につなげていく。

##### (3) 展開

時間 (分)	・学習活動	○教師の働き掛け ●予想される児童の反応	□評価 ○支援 ◇留意点
3	・ Greeting	○シャッフル挨拶	○フラッシュカードで視覚的に行う。
9	・ Review ・ チャレンジタイム	○かかわり合う場の設定～友達の助け・ALTの発音動画～ ●もっと話したい！	○発表原稿を映したり、リズム・テンポよく復習させたりする。
6	・自分の課題を設定する。	○悪いモデル発表を行うことで、どのような点を工夫して発表練習すればよieldか考えさせる。 ●はっきり話さないとよく伝わらないなあ。	○伝わりやすいポイントはどこかを意見を出させる。声・アイコンタクト・はっきりの3つを意識してブラッシュアップタイムをする。

22	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タブレットを使用し、発表リハーサルをする。</li> <li>・友達の発表を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ペアで発表役とビデオカメラ役に分かれてやり取りさせる。</li> <li>●意識していたつもりでも実際は違ったなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li><input type="checkbox"/> 行動観察</li> <li><input type="checkbox"/> ワークシート記述</li> </ul>
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・振り返りシートに記入する。</li> <li>・共有する。</li> <li>・まとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○どんな紹介をしたら相手がより分かってくれるかを考えさせる。</li> <li>●次回の発表会で気を付けたいポイントが分かった。</li> <li>●うちでも練習したいなあ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○次回よりよい発表に向けて、自身の発表や友達のよかったポイントを振り返らせる。</li> <li><input type="checkbox"/> 発表</li> <li><input type="checkbox"/> 振り返り</li> </ul>

#### (4) 評価

- ① 思考力・判断力・表現力等
  - ・目的・場面・状況が設定された言語活動の中で、内容は適切だったか。
  - ・ブラッシュアップを通して、分かりやすく伝えるための工夫を考えられたか。
- ② 主体的に学習に取り組む態度
  - ・粘り強く取り組み、自己調整や試行錯誤しながら発表に生かそうとしているか。
  - ・目的・場面・状況に応じて、相手を配慮しているか。

### 5 実践を振り返って

#### (1) 授業の実際

本単元では、「ALTや友達に夏休みの思い出を写真で伝えよう！」というゴールに向けて行ってきた。初めて出会った過去形の表現をチャレンジタイムや大勢の友達とのコミュニケーションを通して、自然と身に付け、話せるようになってきた。単元のゴールの発表会では、実際の夏休みの写真やイラストを提示しながら話すことができ、また興味をもって友達の話を聞いたり、リアクションをしたりする姿が見られた。友達の思い出の様子を「目と耳と心」で楽しむ時間となり、クラスの友達の伝えたいことをしっかり受け止めていた。

実践前後のアンケートでは、「英語を使ってコミュニケーションをとることは楽しいと感じますか」という問いに対して、「楽しい・とても楽しい」と感じる回答をした児童の割合が93.2%から97.2%となった。また、「チャレンジタイム」や「ブラッシュアップタイム」を通して、「達成感を感じた」や「自信になった」という言葉が振り返りの記述で多く見られた。また、「自ら進んで英語を話したいですか」については、「とても話したい・話したい」の割合は、実践前73.7%に対し、実践後には83.7%と約10%上がった。振り返りの記述に、「何と発音してよいか分からなかった言葉が分かったから」や「ALTと話したい」等があった。

#### (2) 研究テーマに関わって

##### ① 全体として

前述の(1)のアンケート結果から、達成感や自信をもつことが主体的に表現しようとする意欲と密接につながっていると見える。また、チャレンジタイムやブラッシュアップタイムは、英語を話すことへの抵抗感を減らし、コミュニケーションを図ることの楽しさに結びつける手立てとしても有効であったと考える。

##### ② チャレンジタイムとALT発音動画の活用

発音動画を活用して自分のペースで学習に取り組めることで、容易に個別学習を進めることができた。何度も練習することにより定型の表現が定着し、自信をもって話せるようになっていった。初めはご褒美シール目当ての児童も、練習を重ねることにより表現が

上達していく経験から、自然と英語を話したくなったり、合格を目指して練習に励むようになりたりした。ALTの動画を活用させることで、「ALTともっと話せるようになりたい！」や「実際にこの英語を使って話してみたい！」とあこがれをもつ児童が増えた。チャレンジタイムやALT発音動画の活用により、主体的に表現しようとする意欲の向上につなげることができた。

### ③ ブラッシュアップタイムとビデオ動画機能等の活用

ブラッシュアップタイムでは、ペアの友達に動画を2回撮影させた。1回目は最初の様子で、2回目は練習後の最後の様子である。また、発表の後にアドバイスワークシート(図1)に記入させた。児童は、自分の姿を動画で見たり、アドバイスカードを読んだりして、自分の課題を発見し、その課題を解決するために進んで練習する姿が見られた。粘り強く練習に取り組むことにより、発表に自信をもつようになり、さらに発表会で「友達に伝えたい！」という思いを強くもつようになった。そして、自然とジェスチャーを入れるようになるなど、児童の主体的な表現を引き出すのに有効であった。

Name	声	アイ コントラクト	顔の表情 顔しきの工夫	一言コメント
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	
	○ ○ △	○ ○ △	○ ○ △	

図1 アドバイスワークシート

### (3) 今後の課題

#### ① 相手を意識した発表

児童は、自信をもって発表できるようになったが、発表する際、間違えずに発表しようとする気持ちからメモや原稿から目を離さずに発表する児童が見られた。この点は、相手意識という点では課題が残る。相手意識をもって発表ができるよう、タブレットで提出させた写真やイラストをもとに、伝えたいことを伝えただけ話せることをねらって指導していく必要がある。

#### ② 「話したい!」「伝えたい!」をもっと～コミュニケーション場面を増やすICTの活用～

ALTや友達に自分の考えや思いを伝えられるコミュニケーションの場面を増やし授業を進めていくために、ICTを活用することで英語の楽しさをさらに充実させていきたい。あくまでも「人と人とをつなぐ」道具として、上手な時間短縮や情報の蓄積、記録など自然と話がしたくなる授業づくりのアイデアを日々模索していきたい。

### <参考文献>

- ・文部科学省(2018)。「小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編」開隆堂
- ・東口貴影(2020)。「小学校英語サポートBOOKS 英語×ICT「楽しい!」を引き出す活動アイデア60」明治図書出版株式会社